

# 県土づくりの3つの戦略 (達成状況)

指標の評価は、戦略毎に設定した平成21年度の目標指標をどれだけ達成しているかを示す指標として、下記の算定により判定しています。

- ・増加目標を設定している項目の達成率は  
「当年度実績値」÷「当年度目標値」=〇〇%
- ・減少目標を設定している項目の達成率は  
「当年度目標値」÷「当年度実績値」=〇〇%

○ 100%以上	(目標を達成している)	～ 達成
○ 90%以上100%未満	(目標を概ね達成している)	～ 概ね達成
○ 80%以上90%未満	(目標達成度が不十分である)	～ 達成不十分
○ 80%未満	(目標達成度が著しく不十分である)	～ 著しく不十分

# ① 広域交流を支える道路網の形成 ~より快適に、より便利に、より確実に~

## 平成21年度の主な取組状況

### ●高速道路や国道等の整備

主要都市間の所要時間短縮を図り、地域の産業経済を支えるため、高速道路や地域高規格道路、国道等の整備を推進しています。

21年度は、別府湾スマートICの本格運用開始により高速道路へのアクセス性が向上しました。また、国道217号佐伯弥生バイパスの部分供用などにより高速道路へのアクセス性が向上し、県都大分市まで60分以内に到達できるエリアが拡大しました。



【別府湾スマートIC本格運用開始】

九州横断自動車道の別府湾SAで、21年4月1日からETC専用のインターチェンジの本格運用を開始しました。周辺観光施設へのアクセスの向上等に寄与しています。



【国道217号 現道状況】



【国道217号佐伯弥生バイパス 供用箇所状況】

国道217号佐伯弥生バイパスにおいて、平成21年11月に一般県道佐伯弥生線～主要地方道佐伯津久見線間の1.3km区間が部分供用されました。この整備に伴い、佐伯市中心部から東九州自動車道佐伯ICへのアクセス性が向上し、県南地域の産業の支援に寄与しています。

## 目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H21年度	H22年度	H27年度 (目標値)
県都大分市の中心部まで概ね60分で到達できる人の割合	目標値a	—	—	92.7%	92.0%	94%
	実績値b	—	89.8%	92.7%	—	—
	達成率b/a	—	—	100.0%	—	—
高速道路ICに概ね30分で到達できる人の割合	目標値a	—	—	95.0%	94.0%	97%
	実績値b	—	86.2%	95.0%	—	—
	達成率b/a	—	—	100.0%	—	—

## 業績評価

達成	別府湾スマートICの本格運用や国道217号佐伯弥生バイパスの部分供用などにより、高速道路IC及び大分市中心部までの時間短縮が図られています。
----	--

## ② 地域を支える道路網の充実

### 平成21年度の主な取組状況

#### ● 国・県道の整備

国・県道の整備を推進し、日常生活の中心となる都市まで30分で移動できる人の割合を高めるなど、旧町村部の利便性向上や地域間連携の支援に努めています。

21年度は、国道442号久住バイパスの完成や一般県道西野浦河内線（西野浦工区）の部分供用などにより、地域を支える道路網の充実に寄与しました。



【国道442号 久住バイパス(竹田市)】

幅員狭小等の解消により、日常生活の中心となる竹田市中心部へのアクセス性が向上し、沿道周辺地域の利便性が高まりました。



【(一)西野浦河内線 西野浦工区(佐伯市)】

幅員狭小等の解消により、日常生活の中心となる佐伯市中心部へのアクセス性が向上し、沿道周辺地域の利便性が高まりました。

#### ● 観光を支援する道路整備

観光と地域づくりを一体とするツーリズムを推進するため、地域と一体となった道路整備を進めています。

21年度は、くじゅう連山を周遊する道路「ぐるっとくじゅう周遊道路」を構成する一般県道阿蘇くじゅう公園線など観光を支援する道路整備を行いました。



【(一)阿蘇くじゅう公園線 沢水工区】  
(竹田市久住町)

沿道観光施設との連携により、改良事業中の区間において歩道舗装を芝生で実施しました。

### 目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H21年度	H22年度	H27年度 (目標値)
日常生活の中心となる都市まで概ね30分で移動できる人の割合	目標値a	—	—	94.8%	97.0%	99%
	実績値b	—	93.6%	94.8%	—	—
	達成率b/a	—	—	100.0%	—	—
救命救急センターに概ね60分以内に到達できる人の割合	目標値a	—	—	93.7%	94.0%	95%
	実績値b	—	91.0%	93.7%	—	—
	達成率b/a	—	—	100.0%	—	—

### 業績評価

達成	国道442号久住バイパスの供用など、計画的に国・県道の整備を推進したことから中心部へのアクセスなど日常生活の利便性が向上しました。
----	---



### ③ 海上輸送拠点の充実

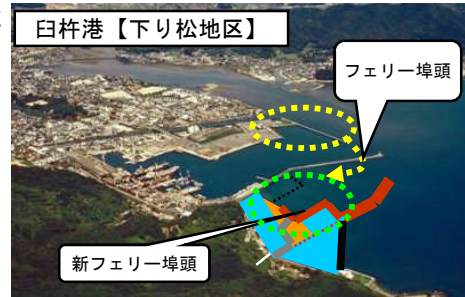
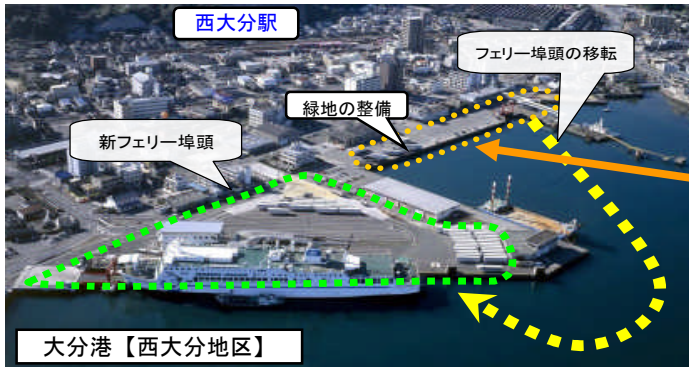
～産業経済を支え、地域の発展をめざして～

#### 平成21年度の主な取組状況

##### ●フェリー埠頭の整備

船舶の大型化や貨物取扱量の増大に対応するため、大分港西大分地区に新たなフェリー埠頭の整備を行い、18年10月にフェリー発着場が移転しました。跡地はウォーターフロント空間として整備しています。また、臼杵港下り松地区においても、新たなフェリー埠頭の整備を行っています。

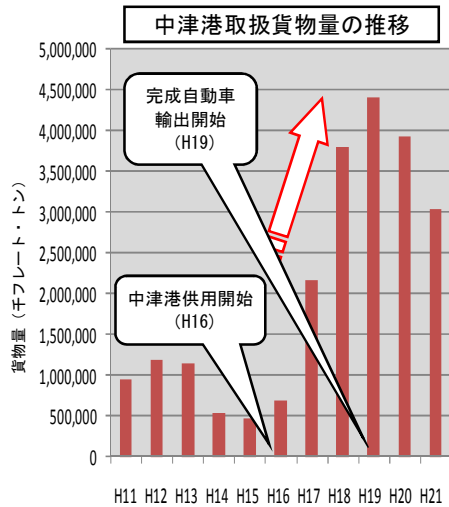
陸運と海運の結節点として、多様な輸送モードの円滑な連携を図り、複合一貫輸送体系の確立に寄与するとともに、緑地の整備を行い、利用者に親しみのある空間を提供しています。



埠頭跡地は緑地として整備を進めており、賑わいの空間が形成されています。

##### ● 港湾の利用状況

海上輸送を利用することは、物流コストやCO<sub>2</sub>排出量削減対策等に効果があります。中津港では、自動車関連産業を中心に港湾が有効に活用されています。今後は、道路網(高速交通体系)の整備に伴う背後圏の拡大や、また、関税法上の開港に指定されたことにより、貿易船の直接入港が可能になったことなどから、更なる取扱貨物量の増加が見込まれます。



H11 H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21  
平成16年の供用開始以来、中津港における貨物の取扱いは急増しましたが、世界的な景気減退により一昨年から減少傾向になっています。

#### 目標指標の達成状況

		10年前	H16年度(計画時)	H21年度	H22年度	H27年度(目標値)
フェリー航路の利用台数(万台/年)	目標値a	—	—	92.4	93.1	96
	実績値b	81.2	89.4	67.5	—	—
	達成率b/a	—	—	73.1%	—	—
港湾の貨物取扱量(百万フレイトン)	目標値a	—	—	125	127	133
	実績値b	130	119	103	—	—
	達成率b/a	—	—	82.4%	—	—

#### 業績評価

フェリー航路の利用台数	著しく不十分	燃油高騰の影響から一部フェリー航路が減便、また高速道路の休日上限千円などの施策により、利用者が大幅に減少したため、著しく不十分となりました。
港湾の貨物取扱量	達成不十分	世界的な景気後退に伴う需要の減退により貨物取扱量が減少したため目標達成が不十分となりました。